

## 組合員・仲間の皆様へ 24 春闘を前進させる一層の団結を呼びかけます

### 諸物価の高騰の中、大幅賃上げを獲得しよう

物流を止めることなく、連日、物流の最前線で奮闘される皆さんに、心より敬意と感謝を表します。今、皆様が肌身で感じている様に、依然として、様々な生活用品や食料品の値上げラッシュによって、日々の暮らしが厳しくなっています。また、電気料金、ガス料金といった公共料金も値上げされたままです。

しかし、大企業は株主の顔色を伺いながら株主配当や内部留保を増やす一方、我々労働者の賃金や労働条件の原資となる料金の引き上げにに応じていません。これを超え、現場の苦勞に答え、大幅賃上げ獲得に向けてたたかう 24 春闘にしていく決意をかためようではありませんか !!

### 日港協の「不誠実な回答」の姿勢を絶対に許さない決意を固め合おう！

24 春闘は、重要な局面を迎えています。日本全体では、政府が大幅賃上げを経団連や労働組合に求めて 10%以上の賃上げを行った産業もあります。

そのような中、3月11日に開催した中央港湾団交での第一次回答に続き、3月25日に開催した第二次回答でも、「各社の事情が異なる」「体力や労務構成が違う」として、殆ど「各社対応」や「個別労使協議」とするというもので、昨年の確認書を反故にする、或いは後退した内容でした。

港湾産別労使は、船社・荷主や行政にきっちりモノを言い、理解を求めながら、産業の健全な発展のために必要な施策と対策を長い歴史の中で創り上げてきました。

この、産別労使関係は、労使が共に生きていくための不可欠な要件であり、「不誠実な回答」の姿勢は絶対に容認してはなりません。

そして、都労委に続き、中労委も独禁法を理由にした団交拒否は不当労働行為と断じ、正常な労使関係に戻しなさいという「命令書」を発出したにも関わらず、日港協は、これを不服として国を相手取って行政訴訟を起こしました。このような暴挙を私たちは看過してはならないと決意を新たにす次第です。

### 日港協は、港湾物流を支える港湾労働者の汗と苦勞に誠意をもって答えよ！

[4月6日(土)・7日(日)を第一次統一行動ゾーンとしてストライキを通告!]

職場は人員不足が常態化し、過密・過重労働が続いています。団交では、「要求を真摯に受け止める」と前置きしますが、回答は不誠実極まりないものです。

個別の労使協議で環境を整えようとするれば、企業間競争とユーザーの圧力で、結果として労務コスト切り下げへと向かうことは、火を見るより明らかです。だから、産別労使が集団的な労使関係の中で働くルール、港湾労働秩序の規範をつくってきたのです。

全国港湾と港運同盟は、第2回・第3回中央港湾団交での不誠実な回答に大幅修正を求めて、ストライキを通告しました。

仲間の皆さん、いまこそ労働組合の出番、頑張り時です。船社が莫大な利益を上げている中、今春闘で大幅賃上げを獲得するには、日港協として適正料金確保の環境を確立せしめることが不可欠であり、そのために、産別結集と団結がどうしても必要です。現状打開へ、24 春闘の前進に向かってストライキの決行を決意し、共に頑張りぬくことを強く呼びかけ、メッセージとします。

2024年3月27日

全国港湾労働組合連合会

中央執行委員長 真島勝重

全日本港湾運輸労働組合同盟

会長 足立賢次